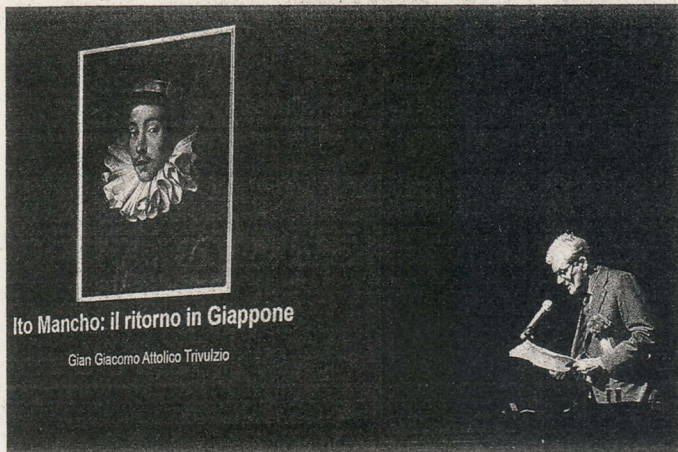


天正遣欧少年使節の1人、伊東マンシヨ（1570?～1612年）の肖像画の所有者を招いた講演会が21日、マンシヨの出身地・西都市の市民会館で開かれた。東京で始まった一般公開に合わせて来日中のイタリアの財団、ジャン・ジャコモ・アットリコ・トリヴルツィオ理事長が「日本人が描かれた肖像画が里帰りできた」と語り、約1000人が聴き入った。

県立美術館で9月展示



マンシヨの肖像画について
講演するトリヴルツィオ氏

肖像画は、1585年のベネチア滞在時にイタリア人画家が描き、同財団の調査で16歳頃のマンシヨ像と確認された。東京国立博物館で7月10日まで公開中で、県立美術館でも9月9日から展示される。

講演会では、絵の裏書きから調査を始め、作者、そしてマンシヨにたどりついた経緯を説明。新聞記事や資料を基に、使節が歓待を受けたことやベネチア共和国の元老院が高額で描かせたことなども紹介した。

演奏会もあり、マンシヨを題材にしたオーケストラや市内の中学生約200人による合唱も披露された。講演後に取材に応じたトリヴルツィオ氏は「多く

の日本人がイタリアを知る機会になればうれしい。

イタリアでもマンシヨをPRしていきたい」と話した。